

妊婦さんも歯科治療を受けられます！

お腹の赤ちゃんを気づかって受診を躊躇しているうちに悪化してしまったらたいへん。まずは歯科医院で相談を！

妊娠期ごとの注意点は？

妊娠初期 (妊娠0～15週)

つわりで繰り返し起きる嘔吐や、嗜好の変化と偏り、吐き気による歯みがき不足などのために、むし歯や歯周病になりやすいお口へと急激に変化しやすいです。

注意点 赤ちゃんの重要な器官がつくられる大切な時期。流産の危険性も考慮して、痛みや炎症をひとまず止める応急処置にとどめ、本格的な治療は安定期か産後に行います。かかりつけの歯科医院で必ず定期的に経過観察を受けましょう。

妊娠中期 (妊娠16～27週)

徐々につわりがおさまって歯みがきが楽になってきます。一方、食欲が増して間食の回数が増えるなど、食習慣の変化がむし歯の原因になりやすい時期です。

注意点 胎盤が完成し安定期に入ります。産後まで治療を待てない場合、外科処置を含む一般的な歯科治療を受けることができます。激しい急性炎症をとまなう進行した歯周病や親知らずの抜歯は、必ず産科の主治医の許可を得て行います。

妊娠後期 (妊娠28～39週)

赤ちゃんが急激に成長して子宮が大きくなり、胃が圧迫され一度にたくさん食べられません。間食をする必要があるのも、むし歯のリスクが上がる時期です。

注意点 仰向けで受診すると子宮に大静脈を圧迫され低血圧症を起こしやすくなります。産科の主治医に相談し、歯科受診ではチェアの背を少し立て短時間の応急処置にとどめるなど、体調に合わせた治療計画を立ててもらいましょう。

歯科治療が必要になったときは？

治療の相談は お早めに



妊婦さんのお口のなかには、妊娠前とくらべてむし歯や歯周病が進行しやすくなっています。治療を躊躇すると思わぬ悪化をまねくこともあるので、症状が軽いうちに歯科医院で検査を受け、体調に合わせて治療が受けられるように治療計画について相談しましょう。

妊娠中だと 教えてください



妊婦さんの治療では、使用する薬剤を妊娠期(初期・中期・後期)に合わせて配慮させていただいています。来院した際には妊娠中だと必ず伝え、「母子健康手帳」をお持ちください。また、産科の主治医に注意を受けていることがあれば教えてください。

産科の 主治医にも 相談を！



歯科治療をご希望のかたは、妊婦健診の際に産科の主治医に相談しておきましょう。妊娠高血圧症や妊娠糖尿病などにかかっていたり、外科などの大きな治療が必要な場合は、必要に応じて歯科と産科が連携し全身状態を把握して治療を進めます。ご安心ください。

妊娠中の 歯科の麻酔、薬、レントゲンの影響は？

薬剤やレントゲンは、安全性が高いとされる範囲の使用であることはもちろん、どうしても必要なときの必要最小限にとどめています。

麻酔薬

歯 科治療でもっとも多く使われている麻酔薬リドカインは、無痛分娩や帝王切開にも使われ、妊娠全週で問題なく使用できる麻酔薬です。一方、プロピトカインは、子宮を収縮させ分娩を促進させる作用があるため、妊娠後期の妊婦さんには使用しません。

消炎鎮痛剤

力 ロナール®、アルピニー、ピリナジン（アセトアミノフェン）は「妊娠中も比較的安全に使用できる」とされています（「産婦人科診療ガイドライン産科編2014」）。痛みがありどうしても必要なときだけ、最小限を処方します。

抗菌薬

比 較的安全性の高いのがペニシリン系やセファム系の抗菌薬です。これらにアレルギーがあるかたには、マクロライド系の抗菌薬が第2選択剤となります。治療上の効果がお腹の赤ちゃんへの影響を上回ると判断される場合に、最小限を処方します。

レントゲンの放射線

歯 科のレントゲン撮影の放射線量は、歯科用デンタルレントゲン撮影1枚につき約0.008mSv。パノラマレントゲン撮影1枚につき約0.01mSvです。

日本に住んでいる人が1年間に浴びる自然放射線量は約2.1mSv。デンタルの放射線量はその1/262、パノラマも1/210にすぎません。私たちは毎年、デンタル262枚分の自然放射線量を浴びているわけですが、そこにデンタル1枚分が加わったとしても、263枚分に増える程度です。

「50mSv（=50mGy）未満の放射線量であれば、お腹の赤ちゃんへの影響と被ばく量との間に関連は認められない」（「産婦人科診療ガイドライン産科編2014」）とされており、この基準とくらべても、いかに歯科のレントゲンの放射線量が少ないかがご理解いただけるのではないかと思います。



防護エプロンを着ると被ばく量をさらに減らせます。

歯科のレントゲン放射線量はどれくらい？

CT検査／1回

胃のレントゲン／1回

集団検診の胸のレントゲン／1回

歯科用CT／1回

約0.1mSv

歯科のパノラマレントゲン／1回

約0.01mSv

歯科のデンタルレントゲン／1回

約0.008mSv

50mSv

50mSv未満は胎児への影響と被ばく量との関連は認められない。

10mSv

1mSv

0.1mSv

0.01mSv

高放射線地域、ブラジル・ガラバリの年間自然放射線（1人平均）

約5.5mSv

日本の年間自然放射線（1人平均）

約2.1mSv

自然放射線とは？



宇宙や空気、大地、食べ物から受ける放射線です。地域によって放射線量は異なります。

人工放射線

自然放射線

放射線医学総合研究所「放射線被ばくの早見図」を引用改変。